

情報科 学習指導案

府立〇〇高等学校

1. 日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限
2. 場 所 LAN教室
3. 学年・組 第1学年〇組 (〇名)
4. 単元(題材)名 情報社会と問題解決「情報社会における法規と制度」(全3時間)
使用図書は、教科書:『図説 情報I』(実教出版社)
5. 単元(題材)の目標
 - (1) 【知識及び技能】
情報に関する法規や制度、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。
 - (2) 【思考力、判断力、表現力等】
情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え考察することができる。
 - (3) 【学びに向かう力、人間性等】
情報社会との関わりについて考えながら、望ましい情報社会の構築に寄与する態度を身に付ける。

6. 教材観

インターネットの利用により、誰もがあらゆるコンテンツの受ける側にとどまらず送る側ともなりうるため、知らず知らずのうちに法律を犯してしまう危険性が伴う。

この単元では、まず個人情報とプライバシーについての知識や、適切な管理方法を身に付ける。また、知的財産権を侵害することが他人の財産を奪うことだという認識を持ち、著作物を利用する場合の手順や望ましい情報社会との関わり方を身に付ける。さらに、著作者の思いや考えに触れ、他者の人権を尊重し相手を思いやる心を育てる。

7. 生徒観

(略)

8. 指導観

情報に関する法規や制度について、生徒に身近なアーティストなど、具体的な事例を用いて理解させる。また、ネットワーク環境の発達に伴い、いつでも・どこでも・誰でも情報を得ることができるというメリットがある反面、様々なデメリットもあることを、過去の新聞やニュース番組などで報道された事案を題材に理解させ、情報を発信・公開・利用するための心構えと、情報社会と関わる望ましい態度を育てる。

9. 単元(題材)の評価規準

知識・技能 【a】	思考・判断・表現 【b】	主体的に学習に取り組む態度 【c】
情報に関する法規や制度、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解している。	情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え考察している。	情報社会との関わりについて考えながら、望ましい情報社会の構築に寄与するために自らの学びを調整しようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画（全3時間）

○：総括的評価（記録に残す評価）
●：形成的評価（指導に生かす評価）

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準 (評価方法)
		a	b	c	
第1時	個人情報に関するルールやマナーについて学ぶ	●	●		【知】 情報社会における個人情報やプライバシー等について理解する。 【思】 情報モラル等に関する知識をもとに、自らの個人情報を適切に管理することができる。
第2時 (本時)	知的財産権における著作権について学ぶ		○	○	【思】 著作権の構造（知的財産権の中での著作権の位置づけや各権利の役割等）や目的をふまえて、その保護と著作物の利用の具体的な場面について考察できる。 【主】 著作物の利用について法規が定められた背景をもとに、情報社会との関わり方について自らの取組みを評価・改善しようとしている。
第3時	知的財産権における産業財産権について学ぶ	●		○	【知】 産業財産権について理解している。 【主】 法規や制度と情報社会との関わり方について自ら Web サイトで調べるなど、主体的に取り組もうとしている。

(※「知識・技能」の総括的評価については、定期考査にて行う)

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・法律の目的や役割をふまえて、著作権の保護と著作物の利用について考えることができる。
- ・自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度を身に付ける。

(2) 本時の評価規準

- ・著作権の構造及び著作権の目的をふまえて、著作権の保護と著作物の利用の具体的な場面について考察できる。
- ・著作物の利用について法規が定められた背景をもとに、情報社会との関わり方について自らの取組みを評価・改善しようとしている。

(3) 本時の準備物

- ・教科書、プリントファイル、クロームブック

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	・体育祭で使用したクラス T シャツのデザインが著作権を侵害しているかどうか考える。	・挙手の生徒数をカウントする。	
展開 40分	・著作権クイズ（○×の二択問題）に生徒どうして理由を話し合いながら取り組む。 (※ここでは、答え合わせはしない)	・プリント配付時に、本時のねらいを伝え、学習内容に興味・関心を持って取り組めるような問いかけをする。	

	- 著作権の構造や権利の名称と目的について理解する。 - ニュース番組で報道された身近な事例について、法律をもとにどのようなことが著作権の侵害となるのか理解する。 - 著作権の保護と活用における具体的な場面について、自分の著作物をどのように守るのかを考察する。 - 著作権クイズの答え合わせをする。 - 著作物を使用する場合について理解する。	- 以降、スライドで解説する際に、気付いたことをメモするように促す。 - 生徒に身近なキャラクターデザインや漫画、動画について、法律がなければどうなるのかを考えさせる。また、学校行事での利用についても考えさせる。 - 机間指導を行い、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに準じて考察するように促す。 - 数名を指名して考え（理由や初めと今の思考の経過等）を発表させ、全体で共有する。 - 判断ができるようになったか、法の必要性に気付けたかを発言から見取り、必要であれば補足の解説等を加える。また、プリントをチェック後に理解が不十分であれば、後日、振り返りとして解説等を加える。 - 著作者に使用の許諾を得ることが最も重要だと気付かせる。	著作権の保護と著作物の利用の具体的な場面について考察している。 【思】（プリント） 本日の学びを生かし、著作権の保護と著作物の利用の具体的な場面について考察している。 【思】（プリント）
まとめ 5分	- 本時を振り返り、新しい発見、気づき、成長したと感じられることを、「R80」※のルールで振り返りシートに記入する。 - オンライン課題を確認する。	- 書き方のルールを、全体に再度アナウンスする。導入時のクラスTシャツについても振り返りの参考にする。 - 身近にあるものに着目して、著作権マーク（本時の内容）と登録商標マーク（第3時の内容）を探してみるように促す。	情報社会との関わり方について自らの取組みを評価・改善しようとしている。 【主】（振り返りシート）

「R80」※… 80字以内で、接続詞を用いて二文で書き表すというルールのもとで振り返りを行う手法

（５）観点別学習状況の評価の判断基準

○思考・判断・表現

「十分満足できる」状況 (A)	「概ね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況(C) と判断された生徒に対する 支援のてだて
著作権の構造や目的等をもとに、著作権の保護と著作物の利用について、本日の学習内容（改変や使用料等）を参考にしながら、具体的な場面について考察をしている。	著作権の目的等をもとに、著作権の保護と著作物の利用について、具体的な場面について考察している。	法規や制度を難しく捉えすぎている生徒に対しては、机間指導を行い、ヒント（改変可能かどうか、使用料をどうするか等）を与えることで、考察できるように促す。

○主体的に学習に取り組む態度

「十分満足できる」状況 (A)	「概ね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況(C) と判断された生徒に対する 支援のてだて
著作物の利用について法規が定められた背景をもとに情報モラルに配慮して、情報社会との関わり方について自らの取組みを評価・改善しようとしている。	情報社会との関わり方について自らの取組みを評価・改善しようとしている。	何を学んだのかを具体的に言語化できていない生徒に対しては、机間指導を行い、本時のねらいを再確認したうえで、取り組むよう促す。

※評価規準の記載については、9. 単元（題材）の評価規準に合わせる。